

## 令和元年度ヒアリ等防除に関する専門家会合 議事概要

日 時：令和 2（2020）年 2 月 4 日（火）14:00～16:30

場 所：経済産業省 別館 2 階 231 各省庁共用会議室

専 門 家：

岸本 年郎 ふじのくに地球環境史ミュージアム教授

五箇 公一 国立研究開発法人国立環境研究所生態リスク評価対策研究室長

坂本 洋典 国立研究開発法人国立環境研究所生態リスク評価対策研究室研究員

辻 和希 琉球大学農学部・鹿児島大学大学院連合農学研究科教授

橋本 佳明 兵庫県立大学自然環境科学研究所准教授

（※ 五十音順、敬称略）

### 【議事概要】

＜令和元年度のヒアリへの対応状況＞

- ・ヒアリ相談ダイヤルに通報があつて個体を確認したケースとは、どのような状況のものか。

→いずれも個人宅に届いた荷物で、密閉された状態で死骸が確認されたもので、拡散は疑われないケースであった。（環境省）

- ・品川ふ頭でヒアリが確認された場所はコンテナヤードの外側であり、ここから 100m 程度離れた同様の環境でもアカカミアリが確認されている。雨天時にヒアリが密集しているかだを作つてヤード内から移動した可能性がある。排水時の水の流れを把握することも必要ではないか。

- ・以前は 68 港湾調査だったのが 65 港湾に減っている。調査頻度等、優先順位をつける必要性はあるだろう。どこを減らしたのか、その理由は何か。

→中国等からの航路として認められているが相当長期に渡つて中国等から船が入つてきていない 3 港（大船渡、呉、平良）を除外した。（環境省）

- ・今年度のヒアリ確認の対応時、最初に発見者らが即効性のピレスロイド系の殺虫剤を散布してしまい、集団を 250m 程度移動させてしまった可能性が示唆された事例があつた。誤つた薬剤の使用は拡散を招くこともあるので初動対応の周知徹底が必要と考える。

＜令和 2 年度のヒアリ対策について＞

- ・対策のラインナップについては概ね提案の通りで良い。

- ・IGR 剤はなじみのない薬であるため、使用方法等の指導が必要である。使用方法については回転散布機などを指定する等、現在指導を進めており、将来的には確実にアリのいる所に薬剤が行き届くようにマニュアル化したい。

- ・空港の調査も引き続き必要。

- 空港調査に関しては 31 空港を対象に国土交通省の管轄のもと実施されている。(環境省、国土交通省)
- ・GPS で調査ログを取るなどして調査データを蓄積し、それを可視化して共有してほしい。調査できている場所とそうでない場所、調査頻度がわかるようになる。
- 現状でも意識しているが、より一層情報整理を進める。(環境省)
- ・調査の優先度付けのため、各港湾の気候条件のほか、ヤード内の雑草の繁茂の状況を把握すべきである。ヤードの補修のための予算確保も重要である。
- 各ヤード内の状況については、今年度に一度取りまとめる予定である。(環境省)
- 対象港湾についてはヤードの舗装改良について補助を実施しており、所用の予算を確保している。(国土交通省)
- ・オリンピックパラリンピックの開催に伴い、立ち入りができないエリアも出てくるだろう。調査を前倒しにする他、緊急対応や調査が実施できるように調整を進めてほしい。
- 東京都と調整を進めていく。(環境省)
- ・ヒアリがメインであるが、アカカミアリも同様の対応をとるという認識でよいか。
- 基本的に対応の考え方は同様である。(環境省)
- ・最悪の状況を想定して動かなければいけない。常に心の準備をしておく必要がある。
- ・ヒアリは多女王制と単女王制があり、後者の方が拡散能力が高いとされるため、どちらかを把握するのも大事。
- ・青海の個体群の単女王・多女王については、DNA 解析中であり、現状確かなことは言えない。単女王のコロニーから多女王制の女王アリが生まれること、また多女王のコロニーから単女王制の遺伝子型の女王アリが生まれることもあるので、いずれにせよ注意しないといけない。

#### <今後のヒアリ対応の考え方について>

- ・コンテナヤード内の清浄化が必要。現在の状態を放置すれば、国内の港が他所への供給源となりかねない。除草剤を用いて根までしっかり除草してほしい。草が無くなれば、クラックの補修もやりやすくなるだろう。
- ・各港湾のバイオセキュリティの程度を評価すると対策状況が明確になる。国土交通省で、ヒアリ対策等外来種への対策を行っているコンテナヤードに対し、クリーン認証などを検討してみてもいいか。
- ・港湾エリアについては、調査時間の確保ができないため、粘着トラップを使用して調査が実施されてきた。しかし、今回のケースを考えると、ベイトを用いた調査が実施できるような時間を確保できるように調整をしてもらう必要がある。
- 調査に時間が取れないことへの対応として、国土交通省からは夏季調査の実施前に港湾管理者に協力を依頼している。また、青海での確認後の 10 月には関係閣僚会議の申し合わせ事項に基づき、港湾管理者に対し協力を要請している。事業者との調整が難航した場合、環境省から連絡を受けて国土交通省が港湾管理者と調整することとしており、今後もこのような対応を予定している。(国土交通省)

- すぐに対応しなければならないことと、時間をかけて実用化するべきことは分けて考えるべき。台湾にはAI技術を用いた同定法やヒアリ探知犬等、日本でも取り入れることのできる技術もある。東京港への緊急的な対策としてこれらの技術を導入すると良い。
  - 広範囲で調査を実施するには調査員が不足していることに関しては、ある程度の時間が必要だが、同定能力のある人員を育て、雇用するシステムを是非とも国でも検討して欲しい。専門性のある人を全国どこでも行けるように待機させる体制も重要。調査地の優先順位付けのためにも、各地にいる調査者のレベルを把握しておくことも大切である。
- 全国の調査人材の確保としては、全国展開している害虫防除を専門とする民間企業の参画も検討できるだろう。
- 今回の資料では探索の方法が中心となっており、見つけた巣や個体の対応をどうするのかがあまり書かれていないのがやや不安である。ヒアリが確認されたとしても駆除できるような体制の構築も重要である。
  - 発見時期も対策を検討する上で重要な要素になる。一般的にヒアリは3～10月に結婚飛行を行うが、ピークは5月～7月である。春に確認された場合には、その後に結婚飛行（拡散）のピークがあるため危険性が高い。また女王アリが見つからなくても既に飛んで行っている場合もある。スピーディーに対応することが必要で、基本方針に入れてほしい。
  - 半径2km調査の優先度の考え方として、女王の有無でなく巣の有無を基準としたほうがよい。女王アリは見落としがちなので、女王が見つからなくても巣があった場合には、周辺調査を実施すべきである。
  - 「定着」という言葉は誤解を招きやすく、判断基準を「拡散の疑い」としたことは良いと思う。
  - 青海のヒアリについては、今年の4月以降いかに早く根絶を達成できるかがカギである。根絶を達成できれば、一つの良い事例となる。これは今の日本のヒアリ対策として、最も優先すべき対策であり、最低限の目標である。
  - やるべきこととその優先順位を整理して方針として示し、地方環境事務所が中心となり、各省庁や地方自治体などと連携して、具体的な対応を進めていくべきである。

#### <その他>

##### ○わさびシート及び路面補修技術に関する話題提供（橋本委員）

- わさびシートを密閉された袋へ入れたところ、100%の殺虫効果を確認した。その成分（食品添加物認可済み）から、燻蒸した荷物を廃棄する必要はないため、処理を行う際に理解を得やすい。
- 神戸港でヤードの補修作業を行った際、もしもヒアリがいた場合に備え、張り替えたコンクリートを一ヶ月程度保管してから処分していた。
- シリコンの割れ目補修材は、割れ目へ注入して硬化させ、アスファルトやコンクリートを張りなおすことなく補修することができる。この補修材は雨もしみこむ。実際に九州の道路管理等で新技術として使用されているアクリル素材に比較しても、引火性等の取

扱い面でさらに優位である。物流を止めることができず全面的な補修が難しい場合でも、早急に対策できる手法を港湾管理者に示し、選択できるようにすべきである。

○ヒアリ探知犬に関する話題提供（坂本委員）

- 半径 1m、深さ 20cm までなら、ごく少数のヒアリでも感知することが可能。地表にアリが見えていなくても発見出来るのが人と違って優れている点。初期巣を発見するのであれば優れた武器になる。実際の使用例としては、ベイトでヒア리를誘引し、大まかにヒアリの巣を目視確認したあと、探知犬を用い、初期巣の探索を行う。駆除実施後の残存個体確認のために使用した例もある。
- 現在 2 頭は、一時的に借り受ける形であればすぐにでも導入できる状況である。

以上